

校長会報

平成28年度 第2号
発行所
島根県小学校長会
事務局
松江市母衣町 55
県教育会館内
TEL (0852) 27-8530
FAX (0852) 67-3360

島根の未来を担う子どもたちのために



島根県教育委員会教育長

鴨 木 朗

今夏、本県で全国高等学校総合体育大会が開催されました。高校生役員のさわやかで心温まるもてなしに対し、来県された皆さんから高い評価をいただきました。改めて、島根の子どもたちの全国に誇るべき良さに気づかされます。これまでの全国学力・学習状況調査の結果からみしても、島根の子どもたちが地域の行事に参加する割合や近所の人に挨拶する割合が全国に比べてかなり高いことがわかります。この良さは県内のすべての学校で取り組まれている地域の「ひと・もの・こと」を活用した「ふるさと教育」や、地域の人のかわりを大切にした

「ふるまい推進」など島根らしい教育の成果であり、温かい地域住民の皆さんとの触れ合いの中で子どもたちが健やかに成長している証しであると感じています。

こうした人情味あふれる本県も一昨年、人口が70万人を割り込み、若者の定住や産業の振興などの課題を抱えており、その課題解決に携わる人材の育成が急務であり、学校教育に対する期待も大きいものがあります。

国においては、現在、次期学習指導要領の改訂に向けて「審議のまとめ」の作業が進められ、年内には中央教育

審議会答申がまとめられ、年度内に次期学習指導要領が告示される予定になっています。

そこでは、グローバル化、技術革新が急速に進展し、将来の予測がますます難しい時代において、未来の創り手である子どもたちに学校教育を通じてどのような資質・能力をいかに身につけさせるべきか議論が重ねられています。そうした中で「社会に開かれた教育課程」を実現するという理念が提言されています。これは、教育課程を通じて、子どもたちが積極的に社会や世界とつながり、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していける力を育もうとする考え方です。そのためには、学校と社会が「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を共有し、連携・協働していくことが求められています。そして、この教育課程の実施に当たっては、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、地域社会の皆さんと対話や議論し、その目指すところが共有・連携して実現していくことが必要であるとしています。

この理念は、学校教育と社会教育を通じた学びの中で、社会とのつながりを重視して取り組んできた本県にとっては、決して新しい考えではないと思います。本県には全国に誇るべき、豊

かな自然、古き良き文化・歴史など特色ある地域資源があり、子どもたちの健全な成長を願い、学校に協力を惜しまない地域社会が健在しており、子どもたちが社会性を身につけ感性豊かにたくましく育つ教育環境を有していると思います。

校長先生方には、各学校が所在する地域の強みやすばらしさを生かした特色ある教育活動を推進され、ともに、保護者や地域の皆さんと積極的に対話され、三者が協働して子どもを育てていく体制を構築されるようリーダーシップを発揮していただくことを期待しています。

また、新学習指導要領の目指すところを十分に理解され、カリキュラム・マネジメントの考えのもと、子どもたちが主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を通して、島根の未来を担う子どもたちが次代の社会の創り出していくために必要な資質・能力をしっかりと身につけることができる教育を推進していただくようお願いいたします。

このような魅力ある教育環境で、質の高い学校教育を受けた子どもたちが「島根の学校で学んでよかった」「島根に生まれてよかった」と母校やふるさとへの愛着や誇りを持ち、地域に貢献しようとする心豊かでたくましい人に成長してほしいと願っています。